



代表取締役社長の範疇でございます。

本日はお忙しい中、株式会社オプトランの2022年12月期第2四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

2022年上半期は、ロシア・ウクライナ情勢や中国でのロックダウンもあり、厳しいビジネス環境でした。

特に、中国のロックダウンは、弊社の生産と現地の検収に影響を与えましたが、現在、装置生産を加速し、現地の検収作業の支援も強化し、影響を最小限にするよう努めております。

また、今後のリスク削減のため生産拠点の分散化、グローバルな視野でのローカライゼーションを進めて参ります。

2022年度の上半期の受注は、3四半期連続で100億円を超える受注を獲得しました。これは、弊社が、重点研究開発分野としていた3D基板への成膜技術と半導体光学融合技術の成果が、受注につながりました。

更なる成長機会を確実に取り込むことに向け、国内研究開発施設拡充や上海でALD事業の工場建設をし、成長を支えるインフラ構築にも注力していきます。

世界市場の状況は、真空設備技術のニーズが、スマートフォンから新たな分野に広がっています。

先端的なALDやエッチング技術をタイムリーに市場ニーズに合わせて、供給出来るかどうか最重要

ポイントになっております。

弊社は技術開発で世界市場をリードし、新たな市場開拓を積極的に行っており、今後の事業成長を確かなものにして行く考えです。

機関投資家・アナリストの皆様のご理解を宜しくお願いいたします。

01

2022年度2Q実績

02

トピックス

## 1. 2022年度2Q実績

## 1.発表のポイント



### 【2Q累計】

- 受注高は、1Qに続き好調（2Q累計、270億円）。重点研究開発分野である半導体光学融合や3Dでの技術が、カメラモジュール、車載、半導体等の分野で成果を発揮。
- 売上高は、135億円（前年同期比9%減）。中国国内の新型コロナ感染拡大によるロックダウンの影響を受けた。ロックダウン後、現地での生産活動を加速し、検収作業の支援も強化。
- 営業利益は、32億円（利益率24.4%）。ALD装置を中心に新型装置売上が粗利率に貢献。経常利益は、為替益により44億円。
- 光馳半導体技術（上海）有限公司は、上海市宝山区に土地使用権を取得。ALD事業の本格展開に向けての準備が順調に進捗。

4

- 受注高は、1Qに続き好調（2Q累計、270億円）。重点研究開発分野である半導体光学融合や3Dでの技術が、カメラモジュール、車載、半導体等の分野で成果を発揮。
- 売上高は、135億円（前年同期比9%減）。中国国内の新型コロナ感染拡大によるロックダウンの影響を受けた。ロックダウン後、現地での生産活動を加速し、検収作業の支援も強化。
- 営業利益は、32億円（利益率24.4%）。ALD装置を中心に新型装置売上が粗利率に貢献。経常利益は、為替益により44億円。
- 光馳半導体技術（上海）有限公司は、上海市宝山区に土地使用権を取得。ALD事業の本格展開に向けての準備が順調に進捗。

## 2.業績ハイライト（2022年2Q累計）



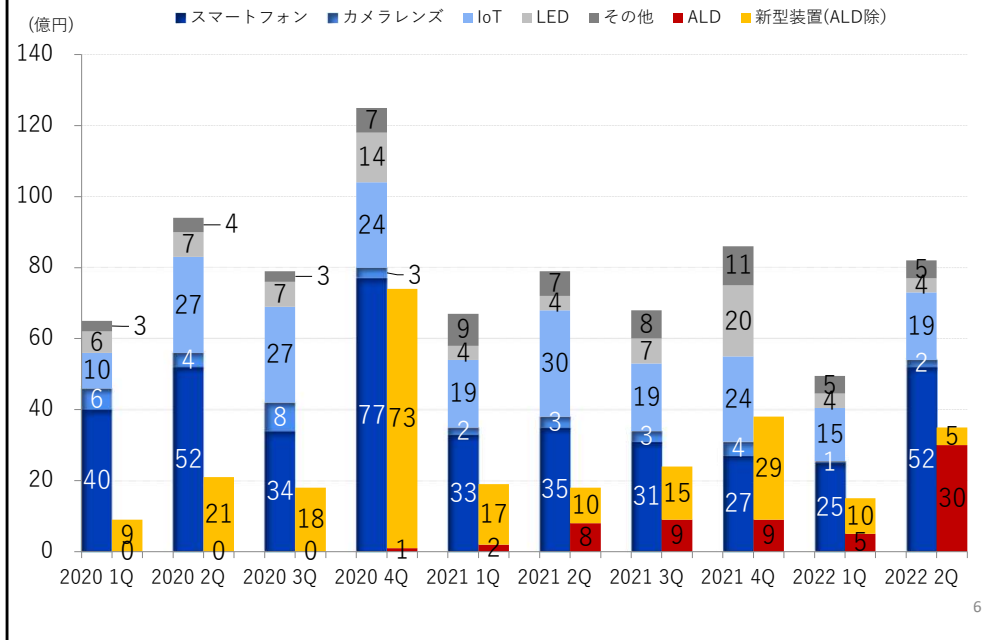
【単位：億円】	2021年12月期 2Q累計実績	2022年12月期 2Q累計実績	前年同期増減率
売上高	149	135	△9.6%
売上総利益	67 (45.2%)	61 (45.6%)	△8.8%
営業利益	34 (23.0%)	32 (24.4%)	△4.0%
経常利益	39 (26.2%)	44 (33.1%)	14.1%
当期純利益	27 (18.3%)	29 (21.6%)	6.7%
研究開発費	17 (11.9%)	13 (10.0%)	△24.0%
設備投資額	4	6	43.1%
受注高	165	270	63.6%
受注残高	251	416	65.6%

(注) カッコ内の数値は売上高に占める割合を示す

5

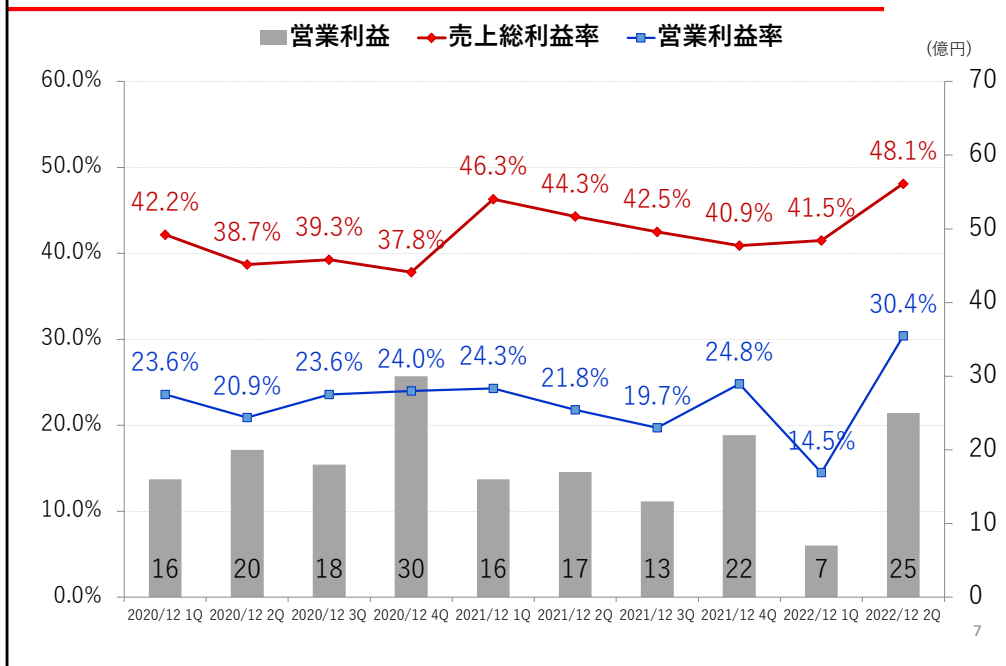
- 2022年12月期第2四半期累計の売上高は、135億円で、前年同期比、9.6%減でした。
- 売上総利益は、61億円。新型装置売上が貢献し、粗利率が上昇している。
- 営業利益は、32億円、営業利益率は24.4%でした。
- 経常利益は、44億円、為替差益が10億円を計上が貢献しています。
- 当期純利益は、29億円となりました。特別損失として、上海の操業休止費用、4,300万円計上。
- 研究開発は、13億円でした。上海ロックダウンの影響で少ない支出。
- 受注高は、270億円でした。2021年4Q及び2022年1Qの流れが継続しました。それに伴い、受注残高は416億円となりました。

### 3.売上高内訳推移（四半期毎）



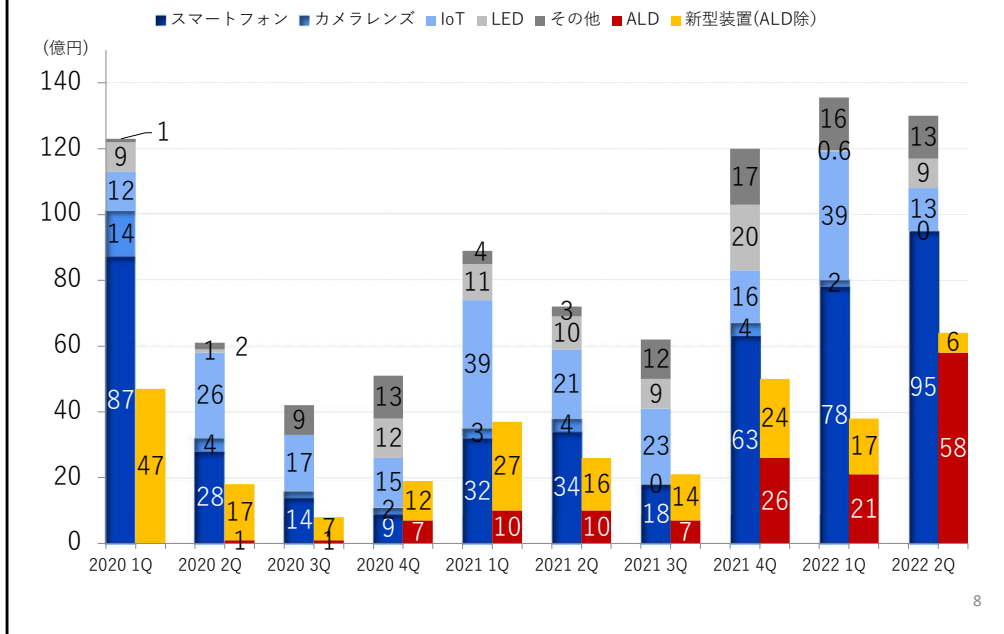
- 第2四半期のスマートフォンの売上は、中国国内の新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンの影響を受けたものの、現地での検収作業を強化し、83億円でした。
- 新型装置売上比率は42%、特に、スマートフォンカメラモジュール向けのALDが貢献（30%超）。

#### 4.売上総利益・営業利益（四半期毎）



- 第2四半期の売上総利益率は、新型装置売上比率が増加し、前四半期比6.6pポイント増。
- 販管費は、上海ロックダウンの影響もあり、計画を下回った。
- 第2四半期の営業利益率は、前四半期比で15.9%ポイント増の30.4%でした。

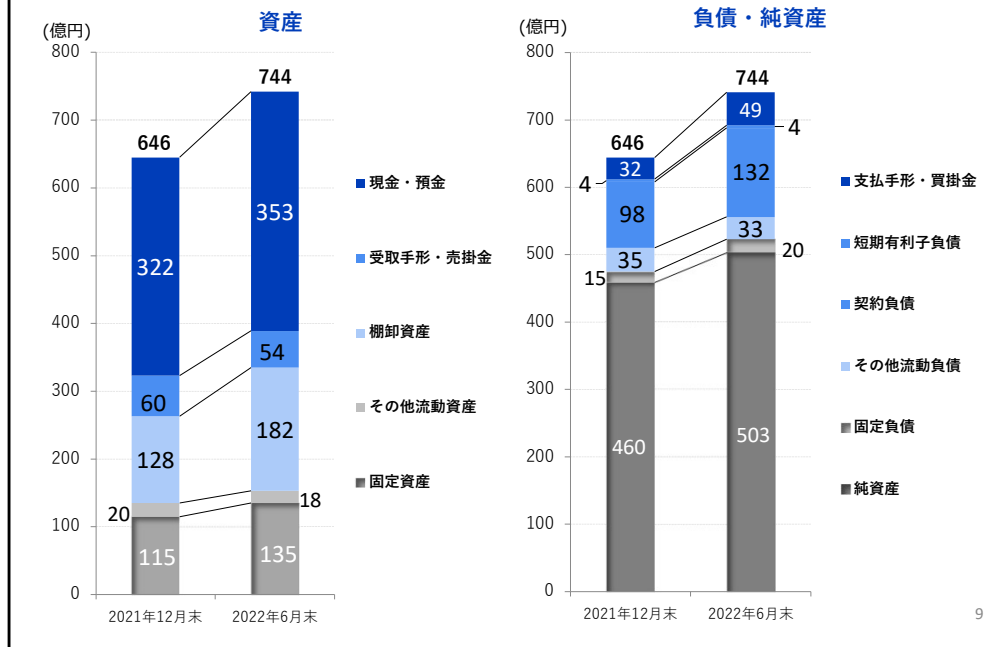
## 5.受注高（四半期毎）



- 第2四半期の受注高は、スマートフォンのカメラモジュール向けが貢献し、2022年1Qに続き、130億円超。
- スマートフォンカメラモジュール向けは、新型装置であるALD装置が特に貢献。レンズ・モジュールの大型化に伴う顧客の投資ニーズが背景にある。
- LED向けは、新型蒸着装置が好調。



## 6.連結貸借対照表（2022年6月末）



- ロックダウン後、現地での生産活動を加速した結果、仕掛品の増加。また、部材不足への対応のため先行発注を進め、原材料も増加。
- 受注増加により、契約負債が増加。

## 7. キャッシュフローの状況



(億円)

	2020年12月期 2Q累計 金額	2022年12月期 2Q累計		主な要因
		金額	増減額	
営業活動によるCF	107	38	△68	棚卸資産の増加のため
投資活動によるCF	△4	△5	△1	有形固定資産の取得のため
財務活動によるCF	△21	△21	0	配当金の支払いのため
現金及び現金同等物に係る 換算差額	6	18	12	
現金及び現金同等物の増減額	88	30	57	
現金及び現金同等物の期首残高	227	322	95	
現金及び現金同等物の四半期末残高	315	353	37	

10

- 営業活動によるCFが貢献し、現預金が前年同期比、30億円増加しました。





## 2. トピックス



## 8.受注動向



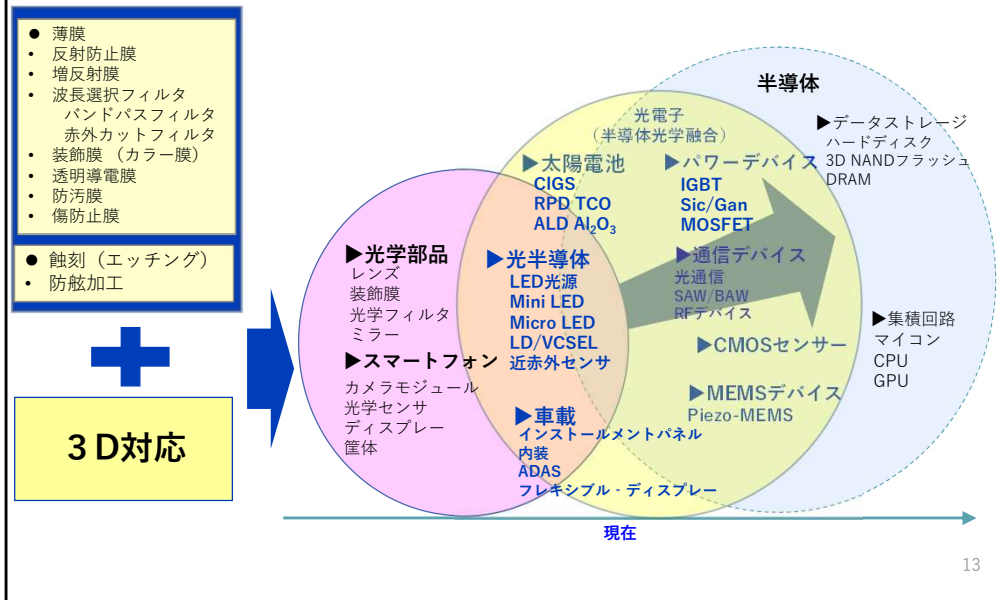
- 3Dや半導体光学融合の先端技術を必要とする、スマートフォンカメラの高機能化や、車載、AR/VR、半導体分野でのニーズが拡大傾向。

	スマートフォン	● カメラモジュールの大型化対応の需要が期待できる。
	車載	● 引き続き、車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、センサー等。
	AR/VR	● ゲームや製造業現場での利用等用途の多様化が進展。
	半導体光学融合	● センシング分野を中心に、半導体後工程でのウェハ上の成膜ニーズが拡大。

12

- 3Dや半導体光学融合の先端技術を必要とする、スマートフォンカメラの高機能化や、車載、AR/VR、半導体分野でのニーズが拡大傾向。
- カメラモジュールの大型化対応の需要が期待できる。
- 車載は、車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、センサー等多岐にわたっている。
- AR/VRは、ゲームや製造業現場での利用等用途の多様化が進展。
- センシング分野を中心に、半導体後工程でのウェハ上の成膜ニーズが拡大。

## 9.中長期ロードマップ（3D+半導体光学融合）



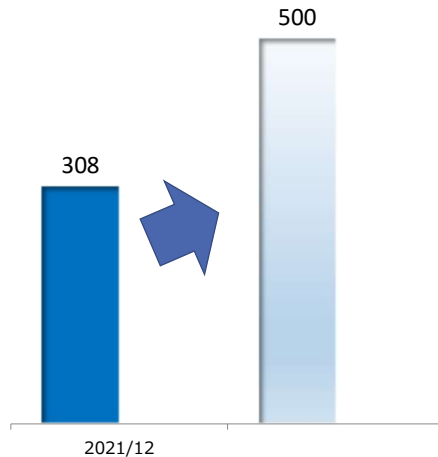
- 中長期のロードマップです。
- ピンク色が、従来の光学部品関連です。
- 黄色は、当社が、数年前より注目し、装置開発をしていた半導体光学融合の分野です。それらの分野では、半導体後工程でのウェハ上の成膜ニーズが拡大している。
- 半導体光学融合の中心の光電子では、パワーデバイス、MEMS、太陽電池等の分野に拡大が期待できる。

## 10.中長期イメージ

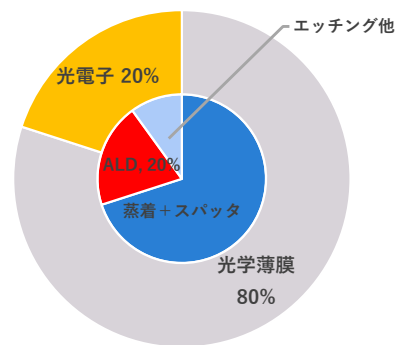


- 光学薄膜分野では、スマートフォン、IoT、LEDを中心に、トップシェアを維持。
- 今後は更に、光電子（化合物半導体、RFフィルター、パワーデバイス等）での新たな需要を取り込む（売上高の20%強）。

中期的売上高イメージ【単位：億円】



売上構成イメージ



14

- 光学薄膜分野では、引き続き拡大が予想されるスマートフォン、車載、AR/VR向け需要を中心に、現在の業界トップシェアを維持。
- 今後は更に、化合物半導体、RFフィルター、パワーデバイス等の光電子分野での新たな需要を取り込み、売上高の20%強を目指している。

## 11.ALD事業



### 1. 応用分野

- レンズ、ディスプレイからAR/VRや半導体光学融合（ウェハレベル・オプティクス）

【スマートフォン(レンズ)】



【ディスプレイ(ミニLED)】



【AR/VR】



【ウェハレベル・オプティクス】



### 2. 光馳半導体技術（上海）有限公司による土地取得

- ALD事業は、当社の中核事業に成長
- 中国市場のニーズを迅速に把握し対応できる体制に向け、工場建設用地の土地取得権を取得。



15

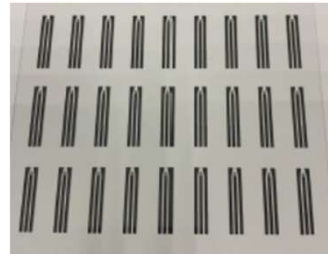
- ALDは、現在のレンズ、ディスプレイから、AR/VRや半導体光学融合（ウェハレベル・オプティクス）へも拡大する。
- ALD事業は、当社の中核事業に成長。
- 中国市場のニーズを迅速に把握し対応できる体制に向け、工場建設用地の土地取得権を取得した。ALD事業の事業規模拡大に向けたインフラ整備が進展中。

## 12.トピックス



### バイオセンサ事業

- 当社の成膜技術に基づくセンサ（電極）を利用した、血統、尿酸用バイオセンサ製品において、当社の顧客がCFDA認証を取得した。
- 今後の顧客のバイオセンサ事業の本格化により、当社の製品ニーズが増加見込。
- これに伴い、バイオセンサ事業は、研究開発段階から事業段階に移行予定。



16

- 当社の成膜技術に基づくセンサ（電極）を利用した、血統、尿酸用バイオセンサ製品において、当社の顧客がCFDA認証を取得した。
- これにより、顧客のバイオセンサー事業が本格化するため、当社が供給する電極の需要ニーズが大幅に増加する見通し。
- 今後、バイオセンサー事業は、研究開発段階から本格的な事業段階に移行していく見込。



## 免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2022年8月5日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

### 【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp TEL : 03-6635-9487